

# 日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第12号 (2009年5月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部  
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会  
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室  
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

## 目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第7回総会のご案内【重要】
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第17回研修会のご案内
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第14回研修会のご報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第15回研修会のご報告
- 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第16回研修会のご報告
- 7 編集後記



## 1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部  
支部長・幹事 猪木 省三

新緑の季節となりました。中国・四国支部の会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2003年4月に支部が発足して、早いもので6年が過ぎようとしております。この間、臨床発達心理士会の会員数は全国で2,000名を超え、支部の会員数も100名を大きく上回る規模となりました。これも、皆様からの多大なご支援、ご協力のたまものと、感謝の言葉もありません。あらためてお礼を申し上げます。

さて、今回の会報のご案内しております通り、来る5月30日(土)の13時から支部総会、続いて14時から支部研修会を開催いたします。

支部総会は年に一度の支部会員の会合ですので、ぜひお出かけ下さり支部の活動についての意見交換、情報交換に参加いただきたいと思います。今回は支部役員の改選期にあたります。またすでにご存じのように本年度から支部会費を支部において徴収するようになりました。その徴収の方法についてもおはかりいたします。

支部研修会は今回で第17回目となります。今回は広島県発達障害者支援センター長西村浩二先生を講師としてお願いしております。「発達障害児(者)のライフステージにおける課題と支援」と題して講演をいただきます。乳幼児、児童だけでなく成人期に至るまでの幅広い年齢の対象者についてお話しいただくとともに、広島県発達障害者支援センターの概要、広島での取り組みについてもご紹介いただきます。資格の更新ポイントとして1ポイントになります。ぜひご参加下さいませようご案内申し上げます。

なお、ご都合で当日の出席がむずかしい会員の方は、総会への委任状をお送りくださいますよう、勝手ながら、何卒よろしく願い申し上げます。

## 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第7回総会のご案内【重要】

2009年度中国・四国支部総会を次のように行います。あわせて第17回研修会も開催されます。ぜひご参加下さいませようご案内申し上げます(詳細次頁)。

- 1.日 時 2009年5月30日(土)13:00～(40分程度, 続いて研修会)
- 2.場 所 広島オフィスセンター  
広島市南区東荒神町3-35 TEL:(082)263-8600  
<http://www.intelligent-hotel.co.jp/banq/oc.html>
- 3.議 題  
2008年度活動報告, 2008年度会計報告, 2009年度活動案計画, 2009年度予算案 他
- 4.アクセス



なお, ご都合で出席なさらない方は, 必ず期日までに事務局宛に委任状をお送りくださいますようお願い致します。総会成立のためご協力の程お願い申し上げます。

### 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第17回研修会のご案内

総会に引き続き, 次のような研修会が開催されます。たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。研修会の参加者ポイントは1ポイント(3時間)です。

- 1.日 時 2009年5月30日(土)14:00~17:00
- 2.場 所 広島オフィスセンター(総会と同じ)
- 3.講 師 西村浩二先生(広島県発達障害者センター長)
- 4.テーマ 「発達障害児(者)のライフステージにおける課題と支援」

講師の西村先生は, 広島を拠点に発達障害児(者)支援にご尽力されていらっしゃる。当日は, 支援センターの活動, 保護者相談の状況, 児童デイサービスの取組, 成人期発達障害者の現状と課題など, 実践経験を踏まえて広く発達障害児(者)への支援についてお話いただける予定です。また広島大学での職場体験実習, 障害者ジョブサポーターなど興味深いお取組もご紹介いただきます。臨床発達心理士に今後求められる役割を知ることができそうです。

#### 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第14回研修会のご報告



2008年8月31日(日),岡山ゆうあいセンターにおいて,中国・四国支部第14回研修会が開催されました。「脳科学を活用した発達障害症状を抑える21のスキル」と題し,平山諭先生(倉敷市立短期大学教授)によるご講演を賜りました。

冒頭,「前頭葉は退化した」との刺激的な縦断的データをお示しいただき,「理性の脳」と呼ばれる前頭葉が変化し,抑制がきかない脳になってきた可能性が示されました。ADHD症状は,ドーパミンとノルアドレナリンの分泌を高めることにより,PDD症状はセロトニンの分泌を高めることによりそれぞれ改善されると考えられています。平山先生は,こうした神経伝達物質を,教師の「言葉」と「表情」で高めるスキルをご研究です。先ず,5つの基本スキルとして,「みつめる」「ほほ笑む」「話しかける」「触る」「ほめる」を挙げていただき,それぞれについて具体的な例を挙げ,丁寧にお話いただきました。次に,発達障害児のいるクラスの授業スキルを,映像を用いて具体的に解説いただきました。子どもの行動1つ1つをどう捉え,どう働きかけるか,脳科学的視点からお話いただきました。さらに,「脳にいい栄養とは?」とのテーマに,望ましい食品をご紹介いただきました。神経伝達物質の効率化・高速化を大豆由来のリパミンPS(リン脂質)で可能にしたご研究についてもご紹介いただきました。



ご講演後,参加者から実践的な質問が多く出され,活発な議論となりました。「教師がスキルを共有できれば,そこからスタートできる」「(スキルによって)まず人を好きにする」とのお言葉が印象的でした。参加者数は24名。遠方からのご参加も多く盛会に終わりました。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

#### 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第15回研修会のご報告



2008年10月4日(土),徳島大学総合科学部1号館301教室において日本発達心理学会企画委員会主催中国・四国地区シンポジウム(中国・四国地区懇話会との合同開催,日本臨床発達心理士会中国・四国支部との共催)が開催されました。このような研修会形式は,今回が初めてです。

シンポジウムは,「特別支援教育支援へのアプローチ~質的研究と量的研究の視点から~」というテーマで実施されました。杉木理佳先生(特定非営利活動法人こどもの発達研究室きりん)と西村健一先生(香川大学教育学部附属特別支援学校)の2名から話題提供していただきました。指定討論者の大六一志先生(筑波大学大学院)および参加者との討論を通して,発達の捉え方,そこからどのように指導方法を導き出すかを検討しました。

杉木先生からは,「自閉性障害をもつ男児との関わり~発達検査に基づいて~」というテーマで対象児の生育歴,観察及び保護者・保育者からの聴取内容,K-ABCと新版K式発達検査結果の報告後,それらに基づく指導のねらい,指導内容,指導経過中の様子を報告していただきました。大六先生から「共同注意」の成立,K-ABC,新版K式発達検査の下位項目結果の解釈,検査結果と観察結果から導き出される指導法などについて杉木先生との質疑応答形式で具体的指導がありました。



西村先生からは,「発達障害が疑われる幼児へのコミュニケーション指導~命令遊びを通して

～」というテーマで「命令遊び」とはどのようなものか、対象児の状態像、保護者の訴え、自由遊びの観察結果、指導方法・内容・結果などを報告していただきました。大六先生から「発達の最近接領域」、「足場作り」という観点から「命令遊び」の解釈があり、その後、「自発的要求行動」、「命令遊び」に選んだ行動、発達水準の見積もり方、支援の効果測定法などについて西村先生との質疑応答形式で具体的指導がありました。

フロアからも検査結果解釈と指導内容に関して多数の質問がありました。特別支援教育では支援計画を立て、指導を実践していくことが求められます。今回のシンポジウムでは、それについて有益な示唆が得られたと思います。参加者は26名（内、臨床発達心理士14名）、臨床発達心理士各支部共催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。

## 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第16回研修会のご報告



2009年3月20日（金・祝日）13時から16時まで、山口県立大学地域交流スペース Yuccaにおいて、中国四国支部第16回研修会が開催されました。今回はテーマを「発達障害の診断と支援～親支援を中心に～」とし、林隆先生（山口県立大学看護栄養学部教授、小児科医・医学博士）にご講演いただきました。



林先生は、小児科医師として発達障害の診断・支援に携わる中で、診断時の親支援及びその後の親へのフォローアップの独自の方法論を構築され、診断や発達支援にかかわる医師や心理士・療育士などへの指導をされています。このようなお立場で、多くの事例やエピソードを紹介されながらのご講演でした。前半は、発達臨床という切り口から、発達障害の理解と支援についてお話しいただき、後半は、親・保護者の包括的支援について具体的な例を挙げながらお話しいただきました。親・保護者が医師や保育・教育・心理等の専門家との信頼関係を構築しながら、子どもの障害や発達特性の正しい理解を深めていくことが重要であることや子どもの発達支援には親・保護者支援を包含するという視点をもつことの大切さを改めて考える機会を与えていただきました。講演の後には、参加者が日頃の実践や研究活動で抱えている悩みや疑問点に答えていただく時間を設けました。参加者の声からも、林先生のお人柄や実践から生成された独自の理論に感銘を受け、臨床発達心理士として、発達障害の子どもとその親への支援をそれぞれの立場で模索していこうという気持ちをもつことができたことが伺えました。

参加者は20名（うち会員13名、非会員7名）、臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格ポイントは1ポイント（3時間）でした。

## 7 編集後記 ～HP更新中！～



支部会報第12号はいかがでしたか。ホームページ（<http://www.geocities.jp/jacdpcs/>）には、研修会などのご案内、支部会報のバックナンバー、支部規程などを掲載しております。新しい情報も随時掲載。ぜひご活用ください。また編集委員会では、支部の情報を広く募っております。気軽にお寄せ下さいませ（宛先：yashima@sanyo.ac.jp：ご利用の際は、を@にかえてご入力下さい）。（編集委員会）